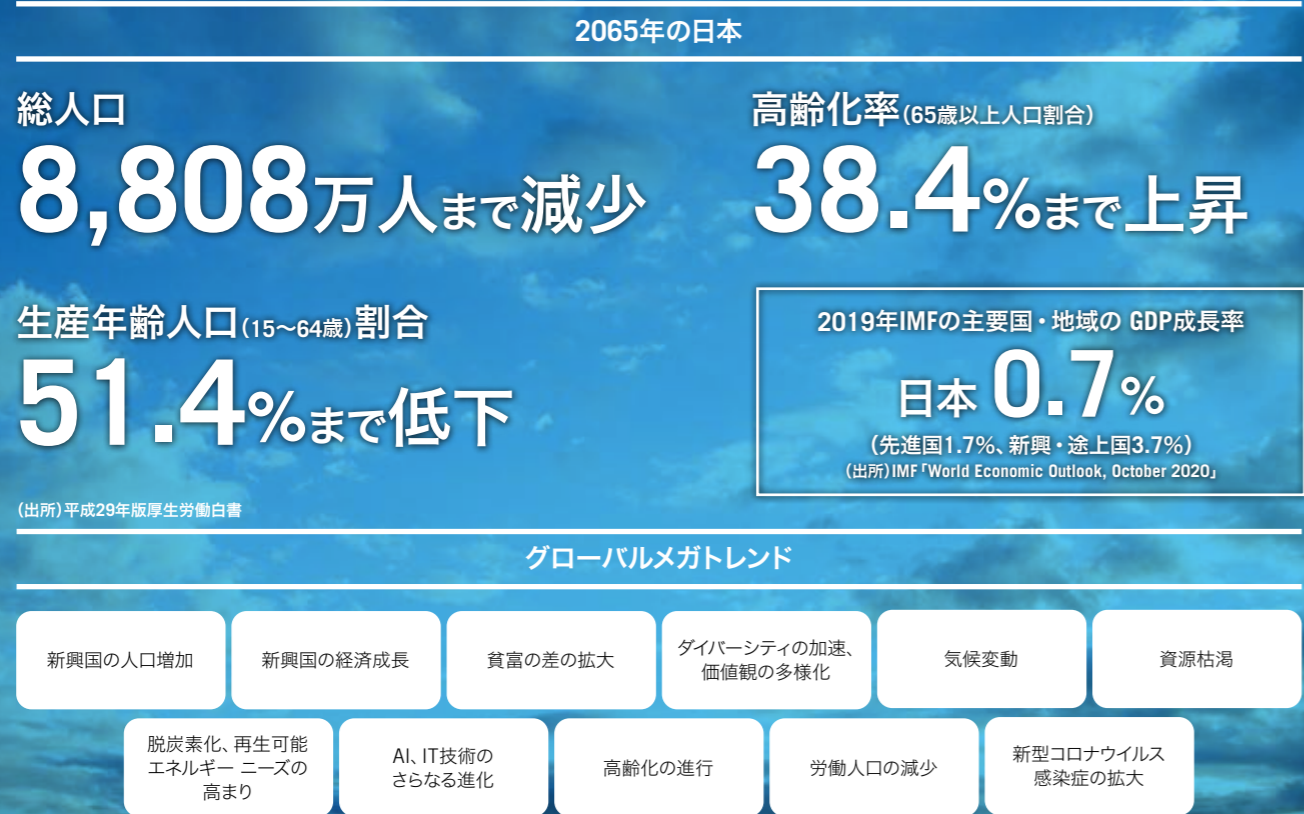


PPIHを取り巻く環境

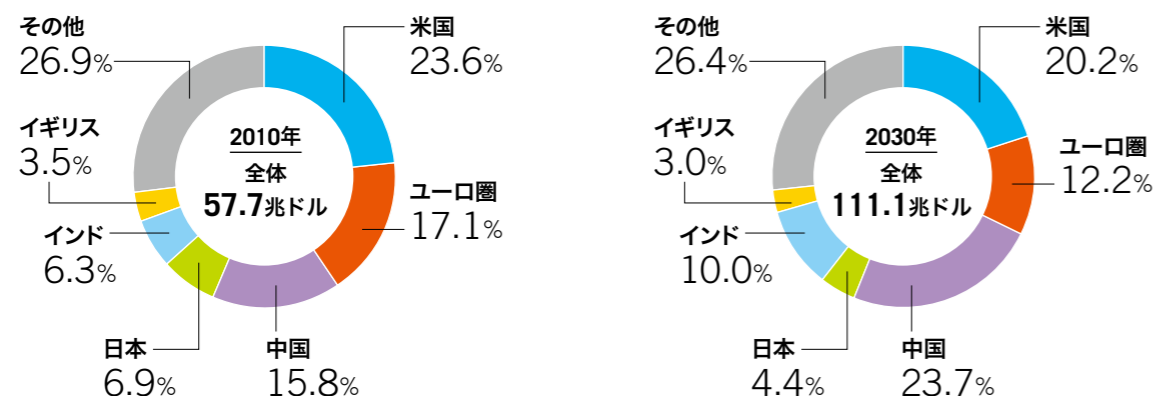
あらゆる変化に向き合い、リスクへ迅速に対応し、機会を最大限に活用する

現代社会は、情報通信技術の進展や市場の開放などによって、さまざまな分野でグローバル化が進むなど、急激な変化を遂げています。日本においては、超高齢化社会に突入し、経済規模の縮小や社会保障制度と財政の持続可能性といった難しい問題が山積しています。企業は、今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、今まで以上にFintech、AI技術、Eコマースといったテクノロジーの動向を見極め、その変化に対して向き合わなければいけません。

海外では、新興国が高い経済成長率を維持しており、それらの国における高い人口増加率が経済効率向上にもプラス効果をもたらしている一方、世界規模で資源枯渇や環境問題が深刻化しており、課題解決への積極的な貢献が求められています。



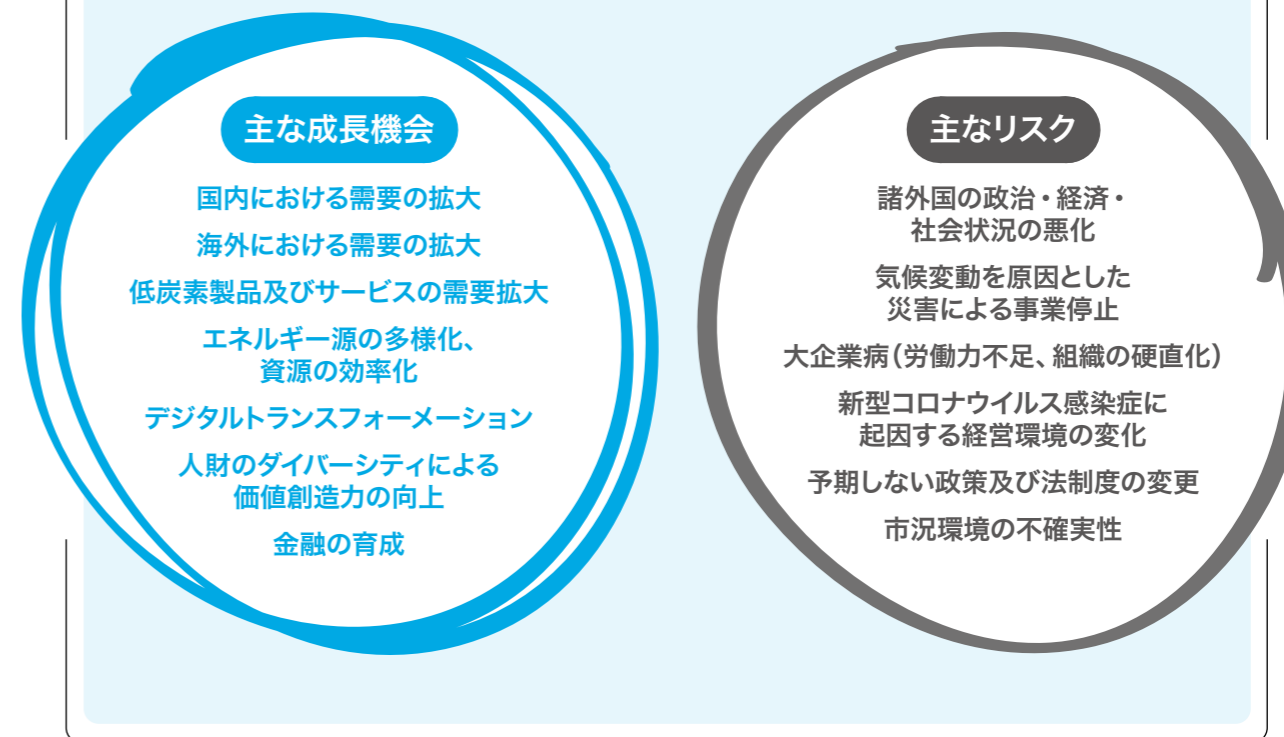
世界経済に占める各国のGDPシェア(実質2005年ドルベース)



(出所)OECD(2014) "Economic Outlook No 95"により作成。(注)ユーロ圏はOECDに加盟している15ヵ国。

PPIHグループは、社会課題への取り組みが新たな事業機会となり得ると考え、予測されるさまざまな問題に対処しつつ、持続的な成長のための基盤づくりを継続しています。これからもますますスピードを上げて、世の中の変化に対応していきます。

PPIHグループは、持続可能な成長を維持するため、規模の拡大のみならず、**低コスト・高収益の実現に向けた構造改革を両立して**いきます。



PPIHグループの対応

国内における事業ポートフォリオ経営

多様な業態や店舗ロケーション、店舗規模などにおいて事業ポートフォリオ経営を順調に推し進めています。ユニーとのシナジーを最大化し、さらなる事業基盤の強化をめざすため、新戦略「New アピタ・ピアゴ構想」を発表。ユニーの持続的な成長をめざし、総合スーパー「アピタ」、食品スーパー「ピアゴ」をリブランディングしていきます。地域のお客さまの声や店舗スタッフのアイデアをプラスし、「毎日行きたくなる店舗」づくりをめざします。

P.18

「エコ・ファーストの約束」を通じた環境マネジメント

PPIHグループは、「環境に配慮した企業市民であること」という環境方針のもと、事業活動を通じて持続可能な社会構築に寄与することに努めています。ユニーは環境への取り組みのトップランナーとして、環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わしています。「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて、食品廃棄物削減やリサイクルなどを通じて、お客さまとともに環境問題の解決に取り組んでいます。

P.30